

大谷石工房通信

毎月 14 日 (いしのひ) 発行

〒337-0003

さいたま市見沼区深作1-28-12

電話 0120-814501 F A X 048-699-0814

ホームページ <http://www.oovaishi.co.jp>

6月 14 日 58号

みなさん こんにちは！ 今年も去年にくらべるとまだ涼しく過ごしやすいのでは？
と思いましたが・・・あつくなったり 涼しくなったり 体調崩しやすいのでみなさん
健康管理には 気を付けてください。

NHKの おひさま という 連続テレビ小説を見ているのですが
まだ20歳くらいの青年が ”僕にも召集令状が来ました 1週間後には戦争に行かなくてはいけません
たぶん生きて帰ってこれないでしょう”と 恋人に告げるシーンがありました。

私はこのワンシーンで一人 号泣してしまいました。
こんな若い青年が お国のためにと 生きて帰ってくることはないよと 恋人と両親の前で
まっすぐ前を見て 話すのです。

自分の恋人や夫だったら・・・息子だったらと考えただけで 涙が止まりませんでした。

その日の夜 近くのドラッグストアの駐車場で 息子と同じ年の子がいたので
17.8歳の 男の子たちが エンジンをかけたままの車の前で
必要以上に大きな声で話 その日はむし暑い日だったからでしょう 上半身裸になり
駐車場に寝そべり あきらかにほかの人の邪魔になっているにもかかわらず
アイスやお菓子を食べ 煙草を吸って ごみを散らかし 30分くらい 騒いだあと
帰っていくのを見ました。
私は その時注意できなかった自分をとても情けなく思い
ドラマのことを思い出しました。

生きて帰ってくることはないよと 出征していった青年は66年前の時代を生きただけで
わずか20歳前後で死んでしまわなくてはいけなかった。
こんな世の中にするために 彼らは命をかけて死んでしまった。
自分の息子を送り出さなくてはいけなかった母親はどんなに苦しくてさみしかったことでしょう。
少し前によくTVに出ていた 前世が見える人に見てもらうことができたなら
私は66年前の時代に生きてたくさんの息子を戦争に送り出していたのではと思うくらい
戦争のTVや本を読むと涙が止まらなくなるのです。
本当に送りだしていた人に叱られるかもしれませんが・・・

いま 平和で自由な世の中で暮らしている私たちは そんな悲しい歴史があったから
いまがあることを 自分自身も 考えて 子供たちにも少しでも教えていかななくては
いけないと思いました。

今月のブレーン大谷石工房予定

上尾→ 川口 → 川口 と続きます。

これから梅雨に入るので 工期がずれてしまいますが・・・
ご迷惑かけないよう 作業させていただきます。